

祝 男子優勝 女子4位 ミニバスケット大会

試合終了のブザーと同時に放たれた、相手のシュートをかたずを飲んで見守り、はざれた瞬間、内外海ブルーファイターズ(六年生男子チーム)の優勝が決定しました。ベンチや二階に陣取った応援団の歓喜の声が、小浜市民体育館に響きました。

予選リーグ2試合、準決勝と無難に勝ち抜き、決勝の相手は松永小学校です。試合開始から一進一退の攻防が続き、シュートが入るたびに大歓声がおこります。後半開始リードを保った内外海チームが念願の初優勝をかざりました。

一方、内外海エレファント(六年生女子チーム)も、予選リーグ2試合を圧倒的な強さで勝ち、準決勝に進みました。準決勝ではあと一步のところまで追い上げましたが、三位決定戦にまわることになりました。決定戦の相手は西津小学校です。お互いの固い守りにゴールに近づくことができません。後半になり、速い攻撃に手を焼きリードを許しました。懸命の攻撃で2点差まで詰めよりましたが及びませんでした。

結果、堂々の四位入賞に輝きました。

二日間たくさんの方々が激励と応援に来ていただきました。その声援を受け六年生は素晴らしい成績と、貴重な体験をすることができました。本当にありがとうございます。この大会で素晴らしい六年生の姿を見ることができました。土曜日、日曜日の試合終了後、二階の応援席まで来てくれて、「応援ありがとうございます」「頑張りました」「等、一人一人が声をかけてくれました。嬉しくて思わず返す言葉が見つかりませんでした。また、ケガをした友達を思いやる姿、それを懸命に応援で返す姿を見ました。学校外でも挨拶や感謝、思いやりの心を行動に現すことができる六年生を見て、また大きく成長したと実感しました。



六年生の感想を紹介します。

○みんなの勝ちたいという気持ちも伝わってきた。女子の勝つてほしいという気持ちも伝わってきた。応援席の人達の気持ちも伝わってきた。小さい学校でも頑張れば変われるし、結果を出せると思った。結果はなんと優勝だった。この大会で仲間を信じる大切さ、声をかけて伝えることの大切さを学んだ。六年生としての結び付きが強まった。嬉しさいっぱい、このことをずっと忘れないと思った。

教えてくださった先生方、家族のみんなにありがとうございますと言いたい。

○クラスのみんなは、ケガをした私に気をつけてくれて、身の周りの世話もしてくれた。みんなが一番大変なのに、私のことを気にしてくれてとてもうれしかった。ケガのことも忘れて力いっぱい応援した。その思いが届いて準決勝に進むことができた。準決勝で負けて悔しくて泣いた。3位決定戦も負けたが、もう泣かなくなった。みんな精一杯頑張ったのだから、悲しくない。この二日間で、クラスの絆が今まで以上に強まったと思う。

先生、保護者の方々、そしてチームのみんなにとっても感謝している。

○この大会を通して、団結することの大切さが分かった。この大会に残念ながら出られなかった友達も、みんなのために応援してくれた。みんなはそれに応えて、一生懸命頑張った。チームのみんながいたからこそ、ここまでこれたんだと思う。

○決勝では、ボールに、先生の気持ちと出場できない友達の良い自分達の思い、応援しているみんなの気持ちを入れてプレーした。

結果クラスの力がすごく高まったと思う。

紙面の関係で一部、表現を変えて掲載しましたので、ご了承ください。

